



2025

2

第417号

教区だより

真宗大谷派京都教区教化広報誌

特集

地区紹介 湖南・湖西

レポート

推進員連絡協議会

第29回 真宗同朋の会全国交流研修会

今、この時に、親鸞聖人に会う

近江 第5組 しちり えいこ 七里 映子 氏
山城 第4組 とくだ じゅんこ 徳田 潤子 氏

湖南地区教化委員会の
取り組み

湖南地区教化委員会地区教化委員長

近江第2組 萬福寺 山本靖



一九九六（平成八）年度から地区教化委員会規則が改正され、組長でない者が地区教化委員長に就任することが可能となりました。これを機に、湖南地区では、組長でない者が教化委員長に就任し、現在に至っています。

また、湖南地区教化委員会の委員は、各組の組長・坊守会長・組門徒会長の他に、教化委員会の内部組織である運営事務局の構成員を兼ねた委員として、各組から一〜四名、計十名程度が就任しています。この運営事務局員が実働部隊となつて、湖南地区の教化企画運営を担っています。

この組織運営には長短ありますが、何より地区内の若手人材の育成に寄与してきました。研修の企画に関わることで、自分自身の聞法の姿勢が問われることになるからです。そして、それぞれ自らの課題は、研修の企画に反映されてきました。

その結果として、過去には、開教事業ともいえる『湖南親鸞講座』、研修時間中に受講者全員が自らお聖教を現代語意識する『聖教学習会』、法話の実践と合評を行う『法話実習研修会』等の特徴的な研修を展開してきましたが、

財政面での制約やコロナ禍により、中止を余儀なくされました。現在は、湖南学場の伝統を引き継ぐ『育成員等研修会』や、機関誌『こなん』の発行（年三回）、湖南地区同朋婦人研修会を受け継ぐ『湖南地区同朋の集い』等を開催しています。そして、昨年五月に開催した「お待ち受け大会」を契機に、「教師養成」「青少年教化」「真宗仏事の回復」の三つの観点で、新たな展開を進めているところです。



湖南地区の若手寺族交流会

近江第4組 正覚寺 齊藤 恵果

齊藤 恵果



湖南地区では、昨年から「若手寺族交流会」を行っています。発端は、湖南地区お待ち受け大会実行委員会での教師養成についての話し合いでした。

「現場の抱える様々な課題」ということで、特に新たにお寺の中心となつていく寺族の様々な不安や課題が出されました。私は、自坊以外の同じような立場の方と話す機会があればと思っていました。他の実行委員からも、近所のお寺同士の集まりがコロナの時期に途絶えてしまったなど、寺族同士が顔を合わせる機会が減っている、気軽に悩みや課題を話し合える場がない、という意見が多く聞かれました。

確かに、教区や組で開催される研修会等に出向けば他の寺族に出逢えます。しかし、平日の開催も多く、兼業のお



若手寺族交流会の様子

寺が少なくない中では参加しづらいのが現状です。そこで、気軽に参加できる交流会を立ち上げようということになりました。

「若手寺族」としてはありますが、年齢制限はありません。住職、坊守、副住職、準坊守、その他全ての寺族の方を対象としています。

昨年の2月に1回目を開催し、12月で3回目となります。初回はざくばらんに話す回、2回目は先輩住職の話聞く回、そして3回目は装束作法についての研修会です。参加者の要望から次の内容を決定する形のため、相談、研修、見学など、毎回内容は変化していきます。

今後は、交流会をきっかけに参加者同士で独自に学習会を行うなど、広がりを持った活動にしていければと思っております。

特集

湖西地区紹介

近江第25東組第25西組・第26組

湖西地区の教化活動を考える

湖西地区教化委員会 地区教化委員長

近江第25西組 光傳寺 早水真順



湖西地区教化委員会の取り組み

湖西地区教化委員会 地区教化委員長

近江第26組 妙願寺 藤井竜象



湖西地区教化委員会が現在取り組んでいる事の一つに聖典学習会があります。ご講師をお招きして年間4回の開催をしています。「聖典の学習会」という敷居の高い名前がついているからなのか、単なる力不足なのか現在は参加人数が少ない状況です。僧侶も門徒も一緒に学ぼうというスタイルで開催をしています。勉強会なのか法話を聞く会なのか、今後の方向性に悩んでおります。いずれのスタイルにしても仏法を学ぶという事はつまりどういうことなのか？

生き方を問う。その様な事が本来の狙いであるはずですが、仏教、聖典を学ぶと言われると自分とは縁遠いものという印象の方も多いと思いますが、言い換えれば私自身の生き方を問う事。伝え方を変えれば縁遠いことだと考える人はいないと思います。沢山のの人に伝えることは今の私には到底できないことかもしれませんが、たった一人でもいいのでお念仏により充実した人生になつたと、法縁を共に喜べる機会にしていきたいと思っております。私自身は委員長就任2年目ですが、委員長とは名ばかりで何も分からないままここまで来ました。いくつかある教化委員会の活動は私以外の人の向けての活動なのかもしれませんが、私自身の成長、学びの場であると思っています。

い難い状況にあります。

湖西地区は滋賀県の北西部に位置する第25東組（長浜市永原地域）、第25西組（高島市マキノ町）、第26組（マキノ町を除く高島市）で構成されています。高島市と隣接する長浜市永原地域は行政区が異なることや地理的環境などにより交流が盛んとは言えない状況にあります。

仏法を学ぶことによつて私ほどのか。聖典というものを学ぶことが一番の狙いではないはずですが、聖典や経典を通して私の

地区の教化事業は年4回の「聖典学習会」と年1回の「人權学習会」です。また、先人たちが育んでこられた歴史と伝統の聴聞、聞法の間として連綿と続けられている「高島秋講」では門徒役員者研修日を設け、各寺院の役員者にお参りいただいています。現在では長浜特区の寺院にもお参りを呼びかけています。

地区内の御門徒全戸に年2回の広報紙「よび声」を発行して配布しています。湖西地区や各組内等の事業に参加した住職、寺族、御門徒から気付いたことや感じたことを書き綴っていただいています。

日常生活のなかでの気づきや疑問、真宗門徒として仏事にどのような向き合っているのかなどの視点を大事にして発行していきたいと編集委員会で確認しました。教化事業を考えるにあたり、近年は特に生活スタイルの変化や宗教に対する思いが変化していることで、教化のあり方についてしばしば考えさせられるようになりました。お念仏とともに暮らし、いただきたいのちに向き合えることができる教化活動になればありがたいことだと願っています。



2024年 高島秋講



湖西地区広報紙「よび声」

第29回真宗同朋の会全国交流研修会

第二十九回真宗同朋の会全国交流研修会に参加して

京都教区推進員連絡協議会副会長 富岡早苗



二〇二四年十月九日から十一日まで二泊三日の掲題の会に参加しました。

全国から百十七名と多くの皆様にご参加いただき、「推進員の原点回帰とこれから」というテーマで、会場を真宗本廟同朋会館にて奉仕団研修会として開催されました。

にわたって講話を賜りました。

真城先生から、私が念仏を称えるその場が「聖空間」であり、その時が「聖時間」であること。どこの場所でも「六字のみ名」を称えると「聖空間」「安心・癒し」の場になることなど、聞かせていただきました。

講師として、真城義麿先生をお迎えし、「推進員の原点回帰」を基調に四講座

今回の研修会の参加者への記念品として、東本願寺同朋の会音頭DVDを皆

様にお配りしました。

滋賀県の江州音頭の真鍮家文好一門の皆様によって、東本願寺の由来、歴史を、解りやすく軽快な節にのせて歌っていただきました。初めて聞かれる方でも解りやすく、東本願寺宗門の歴史の歩みを学ぶことが出来たと思いますので、沢山のみなさんに届けられることを念じております。

合景

京都教区法話チャンネル

研修会での真城義麿先生による講話を、YouTubeの教区法話チャンネルにアップしました。オリジナル江州音頭「東本願寺同朋の会音頭」も、ご覧いただけます。



ひとひと 男と女の平等って、なに？

私はお寺の三姉妹の長女として生まれました。

これは男女共にあるかと思いますが、幼少期から後継の重圧を感じながら生きて参りました。

当時は女性住職制度もなく、当然長

出版部会 伊藤真希

女である私の結婚相手の男性が、お寺の住職になっていたという道すじを、私以外のどなたも願われていたことと思います。

男子を授からないことが「甲斐性がない」という言葉も耳にした時代でした。

私は望まれて生まれてきたのではないのだと思ひ込み、自分の生を恨む若い頃でした。

自分をただけない苦しみの中、「逃げる」と暗い、引き受けると明るい」という法語と出遇い、いただいているあつという間の私のいのちを引き受け、明るくこの境遇をいただいでいこうと決意し、力及びませんが今なんとか住職をさせていただいているところでです。

「女性の住職として何かお困りごとは？」という問いをいただくことがありますが、仏法の下、男性特有、女性特有を認めつつ、できる限りのことをさせていただきます。

宗門でも組門徒会員に女性の選定を促進していただいておりますが、まだまだ何かとお寺参加は男性優先です。男女問わず参加し、仏法聴聞できるお寺になつていくことを願っています。

今、この時に、

親鸞聖人に会う



私が寺にいる意味

近江第5組 浄現寺

七里 映子



お寺は何をする場所なのか。世間に必要とされているのか。寺に嫁いでから何度も考えた。友達ができる度に、「お寺の坊主です」と胸をはって言えない日々。掃除や行事の準備や片付け、お茶出し、法事等日程調整、家族の悩みを聞くこともある。でもそれって仕事って言えるのかな。

時には小馬鹿にされたりもした。仕

事として見てもらえず悔しい思いをしたこともしばしば。いったい私はお寺で何をしているのか。答えが出せないまま時間が過ぎた。

しかし、コロナ禍で様子は一変。平穩が失われて初めて気がついた。報恩講、永代経を恐る恐る勤めると、コロナの不安を感じながら命がけて参ってくださる門徒さんがいた。初めて、必要とされていると実感した。

葬式仏教という言葉があるように、一般にお寺と言えば葬儀をイメージされる。「誰の為にするのか」と言えば、誤解されるかもしれないが、死者では無くそこに参る生者の為である。葬送の儀式は人間の生きた証。死を悼む行為は生きていく人の癒しや

世交代の初舞台、死者への敬意を表す為に行われてきました。その為、たくさんの人の見送りを必要としました。都会では「直葬」「一日葬」が行われているようです。ある葬儀会社の話では、コロナで簡略化され、今や家族葬、家族・親族葬は全体の約8割だそうです。以

前は会葬者が故人を縁に家族と会話をし、互いに涙しながら心が癒されていく姿を何度も見てきました。

残念ながら今はその光景はほとんどない。私の住む滋賀県も例外ではない。会葬者はもちろん今や僧侶も呼ばれない時代となつてしまいました。

人生は喜びも悲しみもあります。嬉しい時も悲しい時も寄り添いながら、僧侶は報恩講、永代経、法事を厳粛に勤めてきました。ただそれだけです。そこで勤めの後にお話しがあります。法話は誤解され易いです。理解が難しい。でも、私たちは普段からきちんと話を聞かない。夫婦や親子の会話でも、自分の都合にすり替えていますか。喧嘩

になりますよね。そんなものなんです。法話に限らず、言葉は勘違いや偏見を招き易い。伝言ゲームをするときよくわかるでしょう。だから何度でも聴かせていただく必要があります。

その点儀式は明確です。基本に忠実にしっかりと勤めていけば幼児にも伝わる。お寺にいる限り、自分がせねばならない「後生の一大事」が必ず来ます。

私が寺に生きる理由はきつと私の番が回って来た時に、精一杯儀式を伝えるということ。なかなか上手いかわいし失敗ばかりの人生です。しかしどこに住まいしようと、自分がやるべきことはただ一つ。仏様の教えを儀式で伝えるということでした。



今、この時に、 親鸞聖人に会う



出版部会での活動を通して

～反省と抱負～

出版部会

山城第4組 光久寺
徳田 潤子



私は現在の出版部会が「出版小委員会」と称していた頃から教区だより編集委員としてのお役をいただいていた（2015年の6月から御縁をいただきました）。

しかし、お役とは名ばかりで、率先して責任を持って編集に携わってきたかを自問自答する日々です。

新京都教区が始動して半年が経ちましたが、この機会に先輩方が「教区だより」を発行するに当たり大事にしてこられた事、そして今後の抱負をもう一度自分の中で確かめたいと思います。

以前から教区だより1つの号につき、平均3時間（長い時は4時間）も話しあつて文章を何度も見直し、日本語の表現方法は的確か、また執筆者の思いがどのように伝わるかを想像しながら丁寧に作りあげていく作業を行っております。これは大変なエネルギーを消費します。しかし、何年か経つと文章をただ精読するだけに留まらず、執筆者本人にしか紡ぎだせない言葉として受け取り、聞法をさせてもらう時間でもあると気がきました。

人の書かれた文章を読んだり、話を聞く時、私はどうしても自分の経験や知識の範囲内で理解しようとしてしまいます。それを委員の皆さんや駐在さんと改めて意見を出し合う事で、自分の思いを超えた考えを聞かせていただき、学びを深めていく事ができる時間になっています。

2020年にコロナウイルス感染拡大の影響で2020年5月号以降は対面での編集会議ができなくなり、事態が

収まるまで通常の誌面とは異なる内容の『特別号』を京都教務所の方で編集、発行していただきました。

コロナウイルス感染拡大により出版小委員会としての活動は休止になり、あわよくば私も休憩ができると思っておりました。しかし、主査から「このよくな時だからこそ親鸞聖人の教えに出会い直していくことが大事。今私たちができる事をしよう」とお話しさし、自分が恥ずかしくなりました。

『特別号』を発行するにあたり、教学研究所所長を始め、全国の御住職方に「今、この時に、親鸞聖人に会う」というテーマで原稿を書いていただきました。皆様のご苦労のおかげで、教区だよりの発行を中止することなく皆様のお手元に広報誌を届けられた事は大きな事だと思えます。

今後の私の目標は、自身が率先して取り組めていなかった取材を大切にしていきたいです。先輩がよく「取材があつての教区だより。自分の足で現地に行き、取材をして生の声を聞いて、多くの方にそれを伝えるのが仕事だ」とお話しされていた事が心に残っています。今の出版

部会の体制ですとゆつくりと取材にも取り組めるのではないかと感じております。最後に出版部会からお願ひがあります。教区だよりに載せてほしい記事、教区内に紹介したい事、特徴的な取り組みをされている寺の紹介などを出版部に寄稿いただけたら幸いです。それ元へ皆さんと共に教区だよりという教化広報誌を作りあげたいと考えております。



京都教区 2月の教区事業

12日(水) 9:30～15:30 坊守会 基礎講座 (Zoom 併用) 教区会館 2階 大講堂
 18日(火)～19日(水) 第17期 第2回 伝道研修会 教区会館

京都教区 2月の教区諸会議

6日(木) 13:30～16:30 教化本部 企画室 会議 教区会館 2階 大講堂
 7日(金) 13:30～16:30 参事会 常任委員会 教区会館 2階 大講堂
 10日(月) 13:30～16:00 部落差別問題に学ぶ 同朋協議会 常任委員会 拡大会 教区会館 2階 大講堂
 20日(木) 13:30～16:30 [旧京都] 財政委員会 専門部会 教区会館 2階 大講堂
 25日(火) 13:30～16:30 教化本部 出版部会 編集会議 Web 会議 (Zoom)
 27日(木)～28日(金) 春季 教師試験 検定 準備 学習会 教区会館

教務所からのお知らせ

住職任命者

二〇二四年十二月十三日付

- ・近江第三組 専光寺 禿快俊
- ・近江第七組 西願寺 伊原明芳

敬弔

ご生前のご功労を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

・山城第一組 光久寺

前坊守 結城花榮子 九十八歳

・近江第七組 西法寺 二〇二四年十一月九日

住職 川口光壽 七十三歳

・近江第八組 上宮寺 二〇二四年十一月二十五日

前住職 早川毅 八十四歳

二〇二四年八月二十二日

(寺院教会番号順 敬称略)

・2025年2月13日(木) 14日(金)

教務所・教務支所開所のお知らせ

所員研修のため、教務所・教務支所を閉所いたします。

長浜教務支所の現金取扱日について

今年度下半期(2025年2月～6月)の長浜教務支所の現金取扱日は左記のとおりです。お知らせいたします。

2月10日(月)	2月25日(火)
3月10日(月)	3月24日(月)
4月14日(月)	4月28日(月)
5月12日(月)	5月26日(月)
6月9日(月)	6月23日(月)

教区だより表紙写真大募集!!

本誌表紙写真を大募集いたします!テーマは宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要テーマ「南無阿彌陀仏」と生まれたことの意味をたずねていこう!です。ご応募は、京都教務所(担当:赤松)まで。お待ちしております!



真宗教団連合滋賀県支部

宗祖親鸞聖人御誕生850年

立教開宗800年慶讃法要

・2025年2月22日(土)

12時受付開始 午後1時開会

会場/野洲文化ホール

講師/釈徹宗氏

宗派の垣根を超え、お念仏の教えに生きる同朋が身近にすることをよろこぶ場が開かれることを願いとして開かれます。音楽法要、仏教讃歌、記念講演を行います。
 ※参加費無料 事前申し込み不要。



依頼「令和六年能登半島地震」

災害に対する救援金の勧募について

昨年(二〇二四年)一月一日に発生した能登半島地震から二年余り経過いたしました。これまで、教区内のみならず被災地の支援にご理解をたまわり、救援金をお寄せいただいておりますこと、この場をお借りして御礼を申し上げます。

木越渉宗務総長は、二〇二五年の年頭にあたり、年末年始、被災地に近い石川県かほく市のご

自坊で過(ご)されたことをお話しにられました。今年(二〇二五年)一月一日、地震発生の時刻

に合わせて梵鐘をついたとき、鐘の音を聞いた方がたくさん集まつてこれ、地震が怖かったこと、

被災地のことを思うといたましい、いたみがころから離れないといった声がかかれたそうです。

一年を経た今日でも、多くの方の心の傷となっていることが推察されます。

これまでにはただ新年を祝うだけの「正月」であつたが、今年の「正月」は被災地を、そして誰かを憶う「正月」になった、新年をただ祝うだけの

「正月」はなかなかかえつてこないかもしれない、鐘をつきに來られた方と話されたこともお

話しにられました。

私たち京都教区としても、息の長い被災地支援を続けてまいりたいと存じます。なにとぞ趣

旨をご賢察たまわり、救援金勧募などの被災地の支援に引き続きご協力くださいますようお願い

いたします。

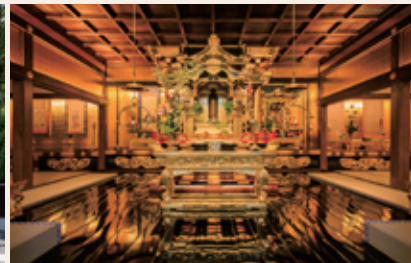
京都教区別院 2月の行事予定

5日(水)	12:00~13:00	赤野井	定例法要(教如上人) 法話 中川眞 師(別院輪番)	赤野井別院
5日(水)	14:00~16:00	山科	定例法話 法話 川那邊正 師(近江第3組 行藏寺)	山科別院
6日(木)	14:00~16:00	伏見	声明作法講座 法話 浅井誠 師(山城第3組 皆演寺)	伏見別院
7日(金)	14:00~18:00	伏見	伝研自主学习会 宮城顕選集『浄土論註聞記』輪読	伏見別院
10日(月)	14:00~16:30	伏見	伏見別院同朋会 御文輪読	伏見別院
12日(水)	13:30~16:30	山科	同朋の会 法話 磯野恵嗣 師(山城第1組 新道寺)	山科別院
13日(木)	10:00~11:30	岡崎	三日講「味読正信偈」 法話 福田大 師(別院輪番)	岡崎別院
17日(月)	19:00~21:00	伏見	親鸞教室 法話 藤原正寿 師(大谷大学准教授)	伏見別院
21日(金)	14:00~16:00	大津	親鸞講座 法話 岩永晶子 師(近江第10組 寶満寺)・沙加戸弘 師(大谷大学 名誉教授)	大津別院
23日(日)	10:00~11:30	岡崎	三日講「蓮如上人を訪ねて」 法話 松岡響 師(別院列座)	岡崎別院
27日(木)	12:00~13:00	赤野井	定例法要(宗祖親鸞聖人) 法話 中川眞 師(別院輪番)	赤野井別院
27日(木)	14:00~16:00	伏見	ご命日のつどい 法話 浅井仁磨 師(山城第1組 瑞蓮寺)	伏見別院

教務所・教務支所閉所のお知らせ

2月13日(木)~14日(金) ※所員研修のため教務所・教務支所を閉所いたします。

岡崎別院 大改修 納骨堂完成 落慶法要



4月26日(土) 午後2時 ご門首御親修 法話 真城義磨 師(四国教区善照寺住職、真宗大谷学園専務理事)

記念行事

4月19日(土) 落語会 午後2時 無料 事前申込制

5月11日(土) フェスティバル 花まつり 午前11時 無料

岡崎別院 京都市左京区岡崎天王町26

京都教区 公式SNSあります!



公式SNSで更新情報や、このページにある「今月のことば」についてのことメッセージなどを配信しています。登録よろしくお祈りします!

LINE公式アカウント 2025年1月6日現在登録者数117名 LINE ID @441foywe



Facebook Instagram もちろんあります!



今号の編集に携わらせていただき、「学習会」「交流会」「法話」「聞法」「会話」などの言葉に、やはり私たちにとって「聞く」ということは難しく、そして大切なことであると感じました。もうひとつの「聴く」という字に「聴す」と送り仮名をつけ、「ゆるす」と読むと教えていただいたことを、日頃とても大切にしているつもりです。しかし、やはり自分を主張し、聴けずかえつて自ら苦しい思いをしてしまい、結局「ごめんね」と謝り合う、そんなことを繰り返している日々であるなど考えさせていただきました。(出版部会 伊藤真希)

編集後記

【表紙の写真】「当たり前がありがたい」(井上至/山城第2組 法泉寺)

